

私の屋久島

屋久島は「前岳・海岸部」の植生の復活が重要課題

屋久島フルーツガーデン 岩川文寛さん



屋久島の前岳部・海岸部は固有種や南限種が多く、種多様性が高くなっています。また、ジャポニカ（日本の名を有する植物）が80種を越えています。更に、数多くの植物が屋久島の固有種として見られます。これら植物群落が原生状態で残っています。植生が回復を願っています。

今年11月始め、明治神宮の森に行きました。大正時代人間の手による人工の森だそう。「イガシ・シラカシ・アカガシ・ウバメシ・ツクバネガシ・コナラ」など、現在にまで残っている樹種は、屋久島の生き残りです。漁業も農業も、屋久島の生き残りです。

屋久島は、「エコツーリズム・グリーンツーリズム」などの観光を目的とする取り組みが、重要な役割を果たしています。観光客の増加により、環境が破壊され、植生が回復を願っています。

屋久島は、「エコツーリズム・グリーンツーリズム」などの観光を目的とする取り組みが、重要な役割を果たしています。観光客の増加により、環境が破壊され、植生が回復を願っています。

花之江河を元の環境に

十一月十六日と十七日に現地調査と保全対策の検討委員会を開催

この検討委員会は、花之江河・小花之江河が登山者の急増による歩道浸食で、土砂が流れ込み、湿原に悪影響を与えていることから、元の環境に戻すための保全対策の具体的な手法を検討するものです。

屋久島が平成五年に世界自然遺産に登録されて以来、入り込み者が急増し、登山道周辺では、浸食崩壊・植生の後退等が各所で見られ、原生的な森林生態系に重大な影響を及ぼしています。

年かけて、環境庁で保全対策を実施しており、施工した土留め対策が、その効果を発揮しているものの、急増した登山者には耐えきれず、土砂の流入の再発生が各所に見られることから、再度の保全対策を講じるため、専門家による検討委員会を実施したものです。

径年変化のデータの積み上げが大事であること、②登山道の付け替えも考えながら、応急対策と根本対策と分けて保全対策を検討すること、③流入土砂の排土を検討すること、④登山道の崩壊防止対策を十分検討すること、⑤各関係機関連携の下、情報交換をして保全対策に当たること等の活発な意見が出されました。

屋久島の植物



オニカンアオイ科
オニカンアオイ
[別名 ヤクシマオイ]
(うまのすずく)

屋久島の固有種。
屋久島には、カンアオイの仲間が二種。オニカンアオイは標高九百m程度の花崗岩の風化土壌に生育している。
花は、径三〜五cmで地面に直接接して咲く。葉の形はアオイのようである。
花期は十一月〜二月。

協力金事業の優良事例調査

十一月二十八・二十九日、林野庁と林政総合調査研究所による、森林環境整備推進協力金事業の調査がありました。

本調査は、全国の協力金制度を実施している中でこのヤクスギランドと白谷雲水峡が上位一、二位となっていることから、他の箇所の参考とすべく現地調査を実施したものです。

山岳部利用対策協議会の開催

十一月十五日、本年度三回目の会議が開催されました。会議では、ゴールデンウィークと夏休み期間中の登山者数の動向及びその対策の結果について報告がありました。

また、ゴールデンウィーク期間中のマイカー規制については、今年の実施の方向で検討することが確認されました。

工事入札結果

十一月十七日にバツファアゾーン整備事業歩道整備工事の指名競争入札が行われ、小牧建設株式会社が落札しました。

縄文杉樹勢回復措置意見交換会の開催

十二月二十日〜二十一日に樹木医などの専門家が来島し、縄文杉樹勢回復措置意見交換会が開かれます。

屋久島森林生態系保護地域などにおける学術調査等の入林状況

(平成12年4月1日～11月30日)

1 植物関係

目的	代表者	所属	地域	備考
鹿児島県希少野生生物調査	内山裕	(財)鹿児島県環境技術協会	島内全域	昆虫類等含む
ヤマモモの果実採取と種子散布の観察	寺村大寿	京都大学理学研究科	2林班	
ヤクシマサルスベリの個体分布調査	野上寛五郎	宮崎大学農学部附属演習林	1～4林班	
天然林の純一次生産速度測定	相場慎一郎	鹿児島大学理学部	2, 76, 81, 204林班	
ヤクシマアジサイとヤクシマガクウツギ(コガクウツギの変種)の分布調査	戸坂芳朗	鹿児島大学理学部地球環境科学科	240林班外	
ヤクシマサルスベリの開花状況の調査	野上寛五郎	宮崎大学農学部附属演習林	2～4林班	
照葉樹林における被子植物の集団構造の調査	寺村大寿	京都大学理学研究科	2林班	
ヤクタネゴヨウ生息地における植生調査	武田義明	神戸大学発達科学部	3, 4林班	
ヒメウマノアシガタの葉の採取	岡田博	大阪市立大学理学部附属植物園	45, 82林班	
照葉樹林の林床に生えている植物が、どのように枝葉を配置して光を受けているかを調査	村岡裕由	岐阜大学流域環境研究センター	4, 5, 270林班	
照葉樹林調査	館野正樹	東京大学理学部附属植物園	3, 4林班	
照葉樹の成長パターンの時間的変化を種毎に明らかにする調査	高田壮則	北海道東海大学国際文化学部	1～4林班	
ヤクタネゴヨウの球果及び種子生産量枯死過程及び枯死要因調査	吉丸博志	森林総合研究所生物機能開発部遺伝科集団遺伝研究室	4, 5, 47, 48林班	
屋久島の蘇苔類相を明らかにするとともに、蘇苔植物の種分化機構解明のための試料の収集	出口博則	広島大学大学院理学研究科	島内全域	
ヤクシマサルスベリの個体分布調査	野上寛五郎	宮崎大学農学部附属演習林	2～4林班	
半山と愛子におけるフェノロジー及び実生追跡調査	朱宮丈晴	東京大学大学院自然科学研究科新領域創成科学研究科	2, 204林班	
生態学の研究(果実の結実数調査、シイの光合成活性の季節変化調査)	野間直彦	滋賀県立大学環境科学部	1～4, 9～16, 74～80林班	
ヤクスギ更新林分の現況調査	寺岡行雄	鹿児島大学農学部	101林班	

2 動物関係

目的	代表者	所属	地域	備考
野生ニホンザルの社会、生態学的研究	早川祥子	京都大学	1～4林班	
ヤクシカ・ヤクシマザル・コウモリ類の生態調査	揚妻直樹	北海道大学農学部附属演習林	1～4, 249～258, 269～272林班	
ニホンザルと森林の相互作用に関する研究	半谷吾郎	京都大学理学部	9, 14林班	
コウモリ相調査	松村澄子	山口大学医療技術短期大学部	1～4, 249～258, 269～275林班	
西部林道周辺のヤクシマザルの頭数調査	杉浦秀樹	京都大学霊長類研究所	1～4林班	
ニホンザルの人口学的資料の収集	半谷吾郎	京都大学理学部	5～10, 12林班	
ヤクザル調査	堀内史朗	京都大学	1～4林班	
ヤクシマザル・クークール鳴き交わしの調査	香田啓貴	京都大学理学部	1～4林班	
野生ニホンザルの社会・生態学的研究	早石周平	京都大学	1～4林班	

3 その他

目的	代表者	所属	地域	備考
昆虫類調査	稲田悟司	(有)サウス・フィールドリサーチ	212～215林班	
屋久島森林地域における大気汚染(酸性雨等)の実態及び影響調査	古賀実	熊本県立大学環境共生部	4, 221, 228林班	
昆虫相・生態調査(カミキリムシ科)	野田亮	福岡県森林林業技術センター	26～28, 213～215林班	
屋久島フィールドワーク講座実習	湯本貴和	京都大学	1～14, 80～86, 204, 205, 212～215, 257, 258林班	
酸性雨調査	永淵修	福岡県保健環境研究所	3, 61, 97林班	
昆虫調査	稲垣政志	日本甲虫学会	1～4林班	
屋久島森林地域における大気汚染(酸性雨等)の実態及び影響調査	永淵修	福岡県保健環境研究所	3, 61, 97林班	
屋久島花崗岩の帯磁率異方性を測定することにより花崗岩の上昇プロセスを明らかにする調査	安間了	筑波大学地球科学系	島内全域 ただし国立公園を除く	
屋久島に分布する土壌の生成分類学的基礎調査	田村憲司	筑波大学応用生物化学系	島内全域	
エコツーリズム支援携帯情報端末のテスト	吉村哲彦	京都大学情報学研究科	1～4, 85, 86, 213～215, 99～101林班	